

連携に向けた課題を見つけ現場で即応できる救助体制を構築するために

第3回災害救助犬 組織連携訓練会 速報

渋川広域消防本部 担当幹事団体：救助犬訓練士協会 日本救助犬協会 災害救助犬ネットワーク



2016年1月17日

群馬県渋川広域消防本部/渋川市内解体工事現場にて

■ 渋川広域消防本部（館林地区消防・吾妻消防・多野藤岡消防本部 他）

■ 救助犬団体

日本救助犬協会・救助犬訓練士協会・岡山災害救助犬・全国災害救助犬協会・サート・災害救助犬新潟・災害救助犬ネットワーク

他個人参加の災害救助犬活動者

■ 合計28頭 88名（岩手県～岡山県）

■ 協力：関東電化工業(株) 渋川工場様 渋川総合病院様

共通認識された課題：情報共有体制確立・救助犬隊のサポート法強化

ブラインド訓練(AM)

阪神淡路大震災から21年目の17日、黙祷を捧げ開会。C棟で救助犬自由訓練。B棟倒壊マンション想定ブラインド捜索訓練。渋川消防指揮本部より救助犬要請後 捜索 要救助者3名中1名救出。時間や取材の制約があったが、先端現場での救助犬捜索情報集約分析が成されていれば3名救出可能であった。検診・フリーイング後昼食。

混成チーム捜索訓練/課題訓練(PM)

訓練テーマは被災地に近い救助犬チームが初期捜索・本部を担える事。チームを統括する救助犬隊長・救助犬を使うハンドラー・犬の発する情報を監視/判断/分析するサポーター等を交代でそれぞれC棟捜索で経験。要救助者発見に至らなかった原因説明を行い、その後渋川消防救助隊のご協力で、見えてきた課題に取り組む個別訓練を行った。寒い中長時間要救助者役のヘルパーご苦労様。最後に各セクションからの課題提示で閉会。

救助犬参加団体にレポート集約中。後日公開予定



渋川消防指揮本部様より

指揮本部と救助犬チーム間が同じ情報で動く事が重要。救助犬活用を含め迅速な救助に向けて訓練を重ねたい。

渋川消防救助隊様より

先端現場で動ける判断力とスキル、本部との調整を密にし、全体が安全に迅速に活動できる様に。

災害救助犬から

貴重な訓練機会を提供していただき感謝。未熟ではあるが今回得た反省を今後の訓練に活かし、人命救助に貢献できるよう努力したい。



消防署での救助犬デモと特性説明



阪神淡路大震災21年 黙祷

速報担当：災害救助犬ネットワーク 広報部